



スライド20

これはグアバで、これを小鳥が食べに来るので、虫が少なくなっています。



スライド21

これはアカリファで、落ちた葉は畑に入れています。

ま と め

- 陸域の自然環境保全が美しいサンゴの生育に代表される海域を保全する。
 - 圃場からの土壌流出防止、肥料の節約が陸域の自然環境保全になる。
 - 圃場の土壌流出防止には、雨滴に当たる裸地が小さくなる間作栽培が良いと思われる。
 - 間作の植付順序はサトウキビ、キャベツ、カボチャ、島菜で行い、収穫順は島菜、キャベツ、カボチャの順になる。
 - 植付けは島菜以外は苗を用いた。
 - 間作することは複数の作物を栽培するため、生産高が高くなる。
 - 間作は裸地が小さくなると同時に、単位面積当りの生産額が大きい。
 - 有機栽培は多量の養分や水を保持するので、作物の生育が大きく、生産量が多い。
 - 間作は有機資材を用いた方が収量が多くなり、生産が安定する。
 - 圃場の土壌流出防止には、グリーンベルトの設置が大切である。グリーンベルトは生産額が高くなり、圃場の保水を高める。
- 広域グリーンベルトは地域エネルギー資源になる。

スライド22

農家が自立しなければ、環境保全はできない。

そこで、土壌流出を防止するためには、間作栽培が良く、収益も良くなります。

ただし、間作栽培を行うには、苗を準備する必要があります。

また、グリーンベルトは畑へ投入する有機物を生産する以外に、広域的には地域エネルギー資源にもなります。

課 題

- 間作栽培する作物それぞれの生態が生かされる土づくりや、管理方法についての調査
- 害虫(昆虫)作物(食草)の関係と作物に対する影響の調査検討
- 化学農薬ではない、生物農薬、有機農薬等の実用化
- 有機資材の安定供給する為に循環システムの構築
- 農産物のブランド化と販売業者との連携
- 自然環境保全の担い手である農業者の経済的豊かさの実現
- 自然環境保全する農業事例に対する助成制度
- 島嶼の自然保全型農業の農産物に対する輸送費の支援
- 安価で良質な堆肥の供給と耕畜連携による畜産の振興

スライド23

最後に、間作栽培を進めるためには、土づくりや管理の調査が必要であります。

農薬は使わないようにすべきですが、害虫と食草の関係を調査する必要もあり、生物農薬や有機農薬が安く手に入る実用化や、有機資材が安定的に供給される仕組みが望まれます。

また、間作で栽培した農作物を安定して売るために、ブランド化など市場との連携も重要です。

自然環境を保全する農家の担い手の経済的自立が必要で、台風などの被害に対する助成は考えるべきです。

終わりに、石垣島などの離島では輸送コストは高く支援や、畜産との連携等も必要と考えます。



スライド24

以上です。